

女と男いきいきネット

ひと ひと
女と男いきいきネットワーク久喜・通信第35号 2022, 6, 23 発行

ご挨拶



令和四年度より引き続き会長にご指名いただきました内海弘美です。特定非営利活動法人子育てステーションたんぽぽの代表をしております。普段は子育ての観点から男女共同参画を考えています。

近年、私たちの生活は新型コロナウイルスによって変化しました。それでも私たちは、ウイルスに負けないよう立ち向かいながら、専門家による研究や日常生活の改善など努力を惜しまず少しずつ日常を取り戻しています。ですが、まだまだコロナ前の状況を全て取り戻すのは難しいのが現実です。これからは新型コロナウイルスのある世界を受け入れ、日常を快適に過ごせるように改善していくことも必要な

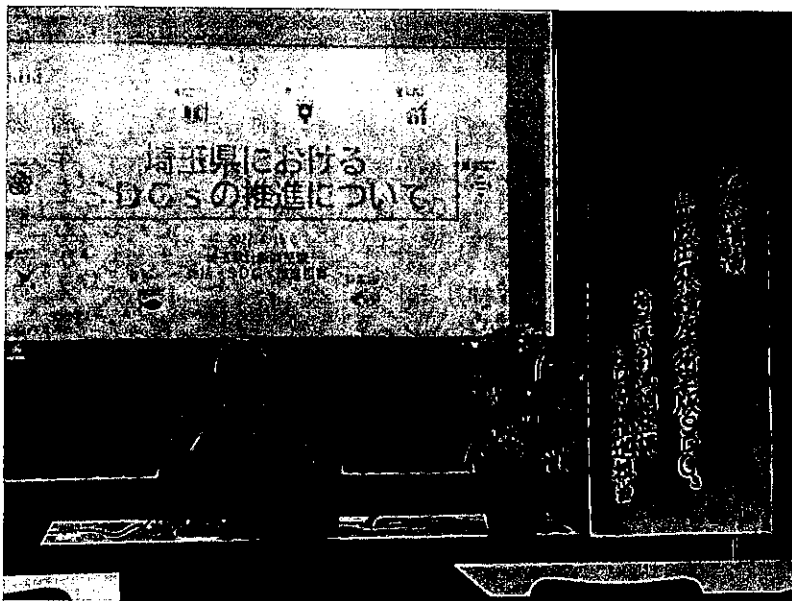
「ネットワーク久喜会長再任の今後の活動に向けて」

会長 内海弘美

のではないでしようか。

女と男いきいきネットワーク久喜でも感染予防の観点から総会の書面決議やつどいの中止、会場の変更など理事の皆様には大変ご協力をいただき活動を続行してまいりました。環境の変化など不可抗力のもと活動の継続は皆様のご協力が不可欠です。また、末永く存続するために市民の皆様にも「女と男いきいきネットワーク久喜」の活動の周知を図る必要があります。参加団体の会員の皆様、理事の皆様そして市民の皆様にも男女共同参画の認識を広

めネットワーク久喜の活動に興味関心を持っていただけるよう努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



※総会記念講演では埼玉県 SDGs 担当の方から、その取組について学びました。

団体紹介

EMツリー

「二期生現況報告」

代表 鈴木 弘道

令和元年度の総会を令和二年六月二十三日に開催して、令和元年度の活動報告、収支決算報告と令和二年度の活動計画収支予算案を提案、承認可決して懇親会となり閉会しました。

この総会后、令和二年度以降の活動は、コロナ感染症防止の主旨に沿って活動自粛の提案があり、みなさんの賛同を得ましたので、七月からの活動については休止としました。

もちろん「暫くの期間」で明確な日限はありません。それが現在に至っております。そろそろみなさんから集まってもいいんじゃない、という声が聞こえてきています。状況判断が難しいです。今どきのオンライン会議のソフトを使って開催したとしても考えますが、何人が参加できませんことかわかりません。やはりフェースのフェースがいい年代です。

ワイワイがやがやがいいですね。みなさんとお会いできる日を楽しみに...

オリーブの会

代表 関口 はつ子

「この災難を乗り越えて」

平和を願う女性メンバーを主として集まり、活動しています。環境問題、食の問題、未来を担う子ども達への関心を持って講師を招き、講演会を開いています。

環境問題では、洗剤に含まれる香料の人体への影響など指摘されるまで気がつかなかったことも多々ありました。

食の問題としては、「コ」と言われる種子の思わぬ影響に考えさせられました。

一昨年以降、コロナ禍に明け暮れ、子ども達を取り巻く情勢も大きく変わりました。貧困層のコロナに対する溺さも指摘されています。

なんととしても、この災難を乗り

り越えて、以前のような活動を！と願っています。



久喜おやこげきじょう

「子ども達に心の栄養を」

運営委員長 岡戸 昌美

久喜おやこげきじょうは一六〇年代、テレビの普及で子どもたちの外遊びや実体験が少なくなっていくのを心配した大人たちによって九州で誕生し、その活動は全国各地に広がりました。現在も埼玉県内各地

域、久喜市での活動は三十二年をむかえました。子どもも大人も”生の体験を通してともに育ちあうこと”を目指し、主に優れた生の舞台芸術を地域に届けています。生の舞台との出会いは私たちの心を揺り動かします。

親子、仲間と共感し語り合うことを大切に、安心して子育てできる居場所づくりや子ども”やりたいな”と思うことを仲間といっしょに実現することが



できるのが久喜おやこげきじょうです。やりたい事が実現し、「楽しい。またやりたい。」という気持ちには心の栄養です。心がみたされた子どもは自信がつき、その自信は自ら生きる力になります。勉強も大事ですが、心が豊かであれば人は生きていけません。私たちは観劇を通してそのお手伝いをしています。



「安心・自信・自由」

代表 増田 知巳

「くきCAP」は、学校や園、児童養護施設、地域の団体などで、子どもへの暴力防止プログラム「CAP（キャップ）」プログラムを実施している団体です。

CAPプログラムには、おとな向けと子ども向けがあり、どちらも参加体験ができるワークショップという形式でおこないます。

「子どもワークショップ」では、「安心」「自信」「自由」という子どもの特別に大切な3つの

権利」を伝え、いじめや、虐待、体罰、誘拐、連れ去り、チカン、性暴力などのあらゆる暴力から、子どもたちが自分のところからだを守るためにできることを短い劇と話し合いを通して、楽しく学べます。

CAPでは、従来の「〜してはいけません」と子どもの行動を制限するのではなく、子どもたちの力を信じて、「〜することができよ」と身を守るための行動の選択肢を一緒に考え、練習します。子どもたちは、劇を通して、暴力にあったときには、ZO（「いや」と言う）・NO（逃げる、その場を離れる）・TEI（誰かに話す）という方法があることを学びます。

子どもたちの相談やサポートの受け皿作りとしても大切な「おとなワークショップ」では、子どもを孤立させないよう、子どもの人権を尊重して、子どもの視点にたったサポート方法を一緒に考えます。CAPプログラムの企画や参加に関心のある方は、

ぜひ一度、お問い合わせください。

【連絡先】

090-8104-70

38(増田)

kuki.cap@ya

hoo.co.jp

【ホームページ】

<https://kukicap.jimdo.com>



久喜きょういくを 考える会 「多様な学び・育ち・ 生き方」

代表 金田 裕美

久喜きょういくを考える会ができるきっかけは、学校に行こうとするが体調が崩れ、学校に通えない子どもたちが年々増え続けていました。当時、教育・医療・心理の専門家といえども不登校の本質がつかめず、的外れな指示を出したりしていました。

そのため、無理解と思われる対応もあり、子も親も振り回され、幾重にも追い詰められ、命の

危機まで感じるようになりました。

親より苦しいのは子どもたちではないか。せめて親だけでも、子どもの生きようとする力を奪わないようにしたいと、互いの経験から学び合う会が、今から二十数年前に発足。月一回の定例会、各地のネットワークとの学習会や合宿、行政の不登校支援の催しなどに参加し、つながりを大切にしてきました。後に「本音・弱音・おやじの会」もできました。子どもたちから「多様な学び・育ち・生き方があることを教えてもらっています」。

三年前に教育機会確保法が施行され、休みの必要性や学校以外の学びの重要性など、不登校児童生徒への支援が初めて法律として明記されました。不登校自体が問題行動ではないとの見解が出てはいます。しかし、近ごろ会に参加される若い親ごさんの辛い気持ちを聴きするたび、とても心が痛みます。

今はコロナの影響で、お電話

でのやりとりです。ほっとする居場所になりますよう、ゆつくり、ゆつたり続けていきたいと思えます。ご参加をお待ちしています。
【連絡先：0480(23)0924】

久喜市商工会 女性部

「久喜市商工会・女性部活動について」

部長 杉田 栄子

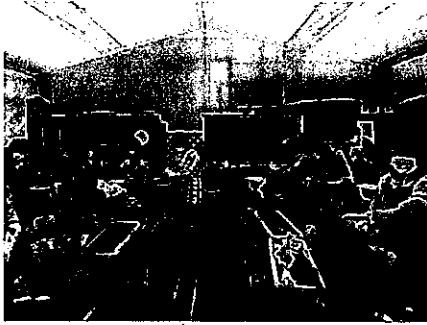
久喜市商工会女性部は久喜市商工会内部組織として部員百四十一名が地域とともに楽しく活動しています。

各種講習会、先進地視察などの研修活動、子育て支援や一斉美化活動、部員

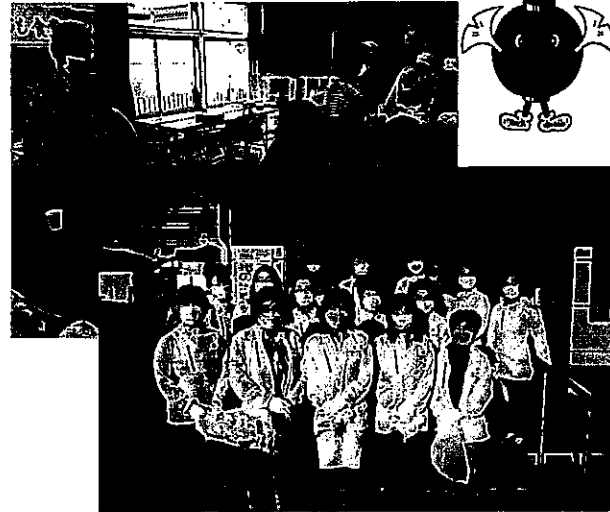
相互の親睦活動など、女性と

しての特性を活かし、商工

会の一員と



員として部員一丸となり取り組んでおります。これからも全社員協力のもと、魅力ある地域づくりに取り組んで参ります。何卒ご指導、ご鞭撻頂きます様お願い申し上げます。



グループ・フォー 「平和のために」

代表 倉持 睦子

『ルワンダを知り、平和を考えよう』と1996年にスタートした団体です。悲惨な虐殺を経験したルワンダですが、現在はアフ

リカの奇跡とも呼ばれる発展を遂げ、女性国会議員の割合は世界一位です。しかし、発展に取り残され其の日暮らしをしている人も多く、支援を必要とする子どもが沢山います。

『平和維持のためには教育が何より大切』とルワンダで学校作りを進めるマリールイズさんに賛同して活動を支援しています。男と女のつどいやMMフェスティバルにも毎回参加してルワンダに関する展示やマリールイズさんの講演会を開催しています。



また、関連団体と連携した活動も行っています。

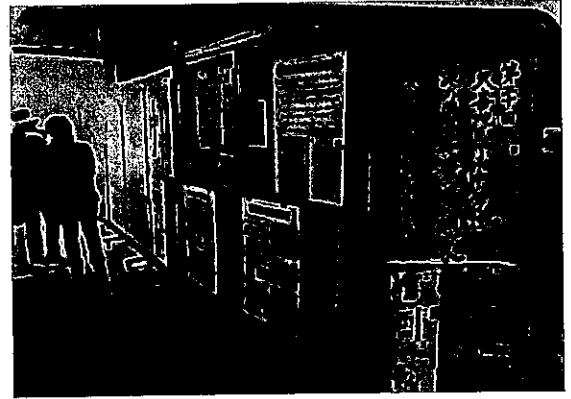
久喜地区更生保護 女性会・久喜支部 「活動紹介」

会表 榎本 恭子

更生保護女性会久喜部会は、久喜・幸手地区保護司会と共に更生保護に関する活動を行っています。犯罪や非行のない明るい社会づくりを目指し、主な活動の一環として「愛の図書」を久喜地区内の小中学校十三校に寄贈しています。毎年七月に寄贈、十二月に児童生徒から寄贈本の『一筆感想文』を募集しています。回収した感想文は、中央公民館に展示して地域の方々にも御覧頂いています。

その他の活動として、「社会を明るくする運動月間事業参加」「街頭啓発や愛の募金活動」「子育て支援」「富士見乳児園支援」「男女共同参画推進月間事業参加」「市民祭り参加」「『男女だより』年二回

発行」等を行っております。



久喜市くらしの会 生活クラブ

代表 岡戸 文子

生活クラブは、リサイクルを主にして活動しています。不用になった物等を利用して、小物から大きい物まで色々作っております。また、部員同士でアイデアを出し合って、教えたり教わったりしながら毎回楽しく作っています。講師はいません。部員が講師です。一人ひとりが自分でできる作品、例えば和服用の

帯でバッグ、家にある残り物の布・毛糸でブローチ、花ボウシ等を作っています。

活動日 は、毎月

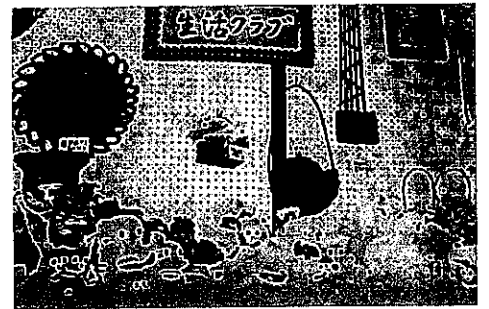
第二、三、四の月曜日、十三時から十六時で、八月は夏休みみです。興味のある方は、0480(22)0602 岡戸までご連絡ください。

久喜市舞踊協会

「歴史を引き継いで」

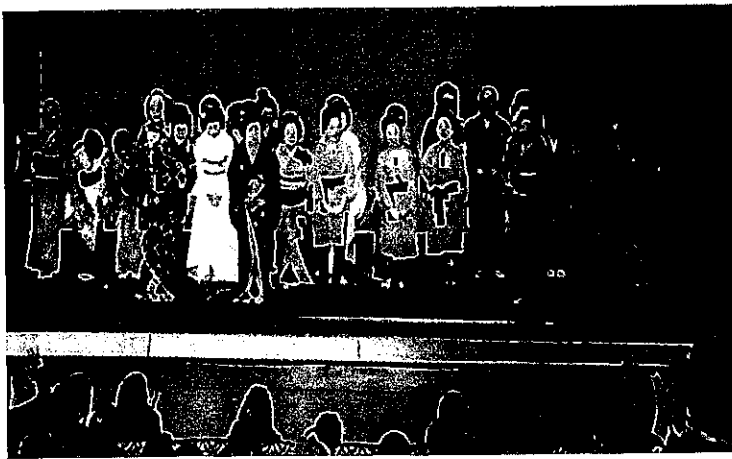
会長 坂東葵美寿郎

久喜市舞踊協会は、昭和六十一年設立、二年後に久喜市久喜文化団体連合会に入会。久喜市の文化祭、諸行事に参加し文化芸能活動の発展に寄与したいと活動しています。当舞踊協会は、会員相互の親睦



を図ることはもちろん技芸の研究にも力を入れ、毎年「春の舞踊会」を開催、令和四年三月十三日(日)には三十五回目を開催しました。古典舞踊、新舞踊、民踊などの舞台に、地域の皆さまも楽しみにご来場下さいます。

また、久喜東小のゆうゆうプラザ(放課後子ども教室)で日本舞踊の指導を行って、十一日目になります。子ども達が将来、日本舞踊を志すようになったら



嬉しいです。四〇〇年の歴史を持つ日本舞踊が消えることがないように！そんな気持ちで胸に一同気を引きしめているところで。

子育てステーション たんぼぼ

「子ども達の笑顔を守るために」

代表 内海 弘美

特定非営利活動法人 子育てステーションたんぼぼです。私たちは「地域で子育て」をモットーに子育て支援と地域活動をしています。主な活動は、久喜駅前のカッキープラザで認可保育園「たんぼぼ保育園」を開

園「たんぼぼ保育園」を開設しています。生後二か月から三歳まで、朝七時三〇分



から夜八時三〇分（延長保育を含む）のお預かりしています。モンテッソーリ教育を実施し子ども達の自由で伸び伸びとした活動を応援しています。久喜駅直結の保育園として通勤の際にはとても便利にご利用いただけます。子育て相談も随時可能です。

また、クッキープラザとコラボしてクッキープラザでのイベントも開催しています。サイコロを振って出た目のトイレットペーパーをゲットしたり…、季節に合わせてプレゼントを用意してゲームをしたり、じゃんけんをしたり…、毎回地域の皆様と楽しく過ごしています。不定期ですがたんぼばザーを開催し、子供用品のリサイクルとハンドメイド品の販売、地域で活動する団体にも参加していただき地域活動の広がりを目指しています。クッキープラザ内のポスターなど内容をお確かめの上ご来場をお待ちしています。

久喜の子育て家族の支援を

様々な方面から考えようとパパ、ママのご意見を募集中です。ご意見・ご要望をお待ちしています。地域とともに楽しく子育てしましょう。

女性問題学習グループ 「なの花会」

「なの花会と読書会」

会長 後上 民子

女性問題学習グループなの花会は、平成二年九月二十六日に発足したので三十二年目を迎えました。なの花会では、毎月一回の会議に合わせ読書会（輪読会）を行っています。

読書会の歴史は古く、平成九年に有志が月一回、夜間にふれあいセンターで「おしゃべり読書会」を開いたのが始まりです。当時は、皆昼間は忙しかったので夜間の集まりでした。歳を重ねると「夜間の読書会はきつい。でも声を出して本を読みおしゃべりすることは大事」ということで、平成二十四年から毎月

例会議の前に本を輪読し意見交換することになりました。当時は、久喜市の「男と女のつどい」を始め各イベントへの参加や男女共同参画公開講演会の開催等々、月一回の会議で検討する課題も多かったため、読書会には三〇四〇分程度しか時間が取れず、一冊の本の読破に二年

以上かかることもありました。ところが、コロナの発症でイベントも公開講演会も中止を余儀なくされて、会議での検討課題も減ったため、三〇四〇分での会議を済ませて後は「輪読とおしゃべり」という現在の形になりました。人前で緊張しながら本を音読することは脳の活性化に役立ち、楽しくおしゃべりすることとは健康維持・増進に繋がるので息長く読書会を続けたいと思います。

興味のある方、ぜひお出かけ下さい。お待ちしております。
【連絡先：0480(22)9120 後上】

新婦人の会 久喜支部

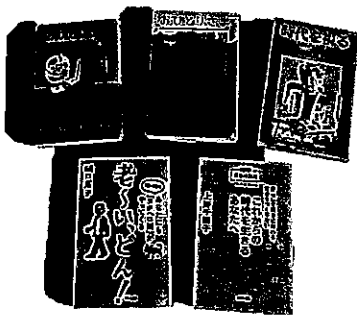
「ジェンダー平等」

支部長 篠崎 節子

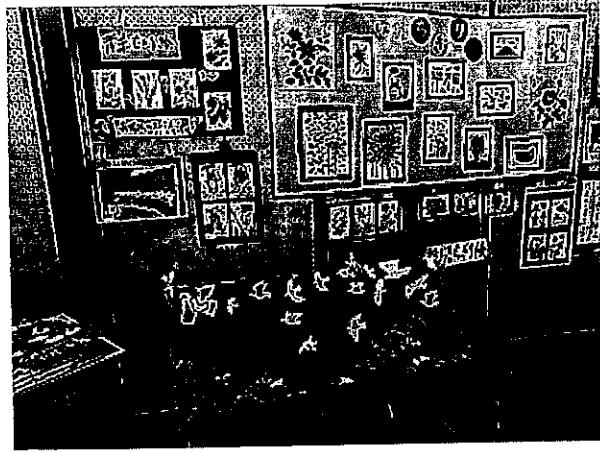
新日本婦人の会（新婦人）は暮らし、子育て、平和など女性の願いを実現するために活動し、持続可能でジェンダー平等の社会を目指しています。平和の取り組みでは、「ふたたび被爆者をつくるな」「ヒロシマ・ナガサキを繰り返すな」と核兵器廃絶を訴える宣伝行動をしています。さらに、子ども達が安全に暮らせるようにと放射線量測定も行っています。

久喜支部には、たくさんのお母さんがいます。親子で楽しむ「親子リズム」、年を重ねても動けるようにと「ダンベル」「ヨガ」、高齢の会員からの要望で始まった「ゆるゆる体操」、頭も

現在読んでいる本



手も心も使いおしゃべりしながら楽しむ「新聞ちぎり絵」「つるし雛」「俳句」「パッチワーク」、響き合う心地良さを感じる「コーラス」。そして、毎週発行される新婦人しんぶんを読み、会員相互の交流を深め、暮らしやすい社会になるよう力を合わせていきたいと思えます。



杉の子会 「心のふれあい会」

会長 西條かつ子

私達の会は、昭和五十八年に

設立し、現在も女性ばかりですが二十名ほどの会員が活動しています。活動は以下の通りです。

★在宅寝たきり高齢者・介助者に友愛通信を送り、心のふれあいを深めています。

★年六、七回、六〇人の方に通信

★社会福祉協議会への協力

★市開催事業への協力

★市ボランティア団体連絡会への協力

★女と男いきいきネットワーク久喜への参加

★With Youさいたまでの男女共同参画事業への協力

★久喜市赤十字奉仕団に協力

【お願い】友愛通信のために書き損じはがきを利用しています。ご協力お願いします。



ヒッポ ファミリークラブ

「多言語の環境で育つ」

代表 関根寿美子

国や人種の違いを越えて、どんなことを話す人ともコミュニケーションできるようなれたら…。そんな思いから1981年、多言語（いくつものことば）を自然習得（母語の習得プロセス）するヒッポファミリークラブは誕生しました。（久喜地域は1991年より活動スタート）

本来、人間誰もが「どんなことばでも」・「いくつでも」話せるようになる力を持っています。世界の半分以上の国では、二つ以上のことばが話されています。そのような国々の「多言語」の中で育った赤ちゃんは、いつの間にか母語として幾つものことばを習得（獲得）していきます。家族や仲間と話されていることばを身につけていきます。ヒッポファミリークラブはその環境に着目し、生活の中で「多言語」の環境を

取り入れ、その環境でどのような変化が起こるのか、自らを体験していくことで「多言語」を内側から理解していきます。

また、地域の国際化への一助として、講演会やワークショップ・公立保育園・小中学校から依頼を受けた国際理解授業なども実施しています。

◆多言語活動参加者の体験談◆
★多言語活動を始めて五年半。この夏、小4の長男は中国太湖オンライン交流に参加予定。恥ずかしがっていた中国語自己紹介も少しずつ滑らかに！母の私は五年前に子ども達と一緒に韓国ホームステイ。いつの間にかその体験を韓国語で話せるようになったり！親戚の集いのような多世代の仲間と共



有する時間の中で、様々な価値を認め合える。人に壁を作らないうって、どんな人でも、お互いを受け止め合うことなのかな、と感じています。(四児の母)

社会福祉法人

たいむ共生会



「ノーマライゼーション」

理事長、若林 敬子

令和二年四月より新たに

ここ数年、日本を含め世界中が未曾有のコロナ禍で私たちの活動も大きな影響を受けています。ですが工夫をしながら、新たな活動として、オンライン

(Zoom)での活動も取り入れました。一時はオンラインのみの活動でしたが、今は「ミニマム コロナ」消毒・マスク・ソーシャルディスタンス」の日常の中、公民館での活動とオンラインでの活動、ラインでの企画と多種多様に広がっています。オンライン企画とリアル(会場)での活動と共に「多言語」を楽しんでいます。

「ヒップファミリークラブはことばに壁をつくらず、目の前の人の話すことばを大切に活動しています。」



発しました「社会福祉法人たいむ共生会」です。約二十年前に

ハローハンドキャップ・タイムが誕生し、我が子のハンドのあることを「ハロー」と言ってしっかり受け止め、前向きに考えることから始まり、その後過ぎゆく時間

(タイム)をそれぞれの成長に合わせてゆっくり刻んでいくように名付けましたが、事業を進めていく中で「人は、支え合い・助け合う中で共に生きている」ということを痛切に感じました。その思いを『共生会』という法人名に託しました。

さて、二十年近く支援に携わっていると未就学児だった利用者も成人を迎え成長期・思春期と時を経て大きく成長してきています。毎日の変化は一進一退にしても長い月日には大き

く成長が見られるので、あせらず・めげず・ゆっくりと利用者に向き合い寄り添っていくことが大事だということを肝に銘じ法人運営に携わって行こうと思っています。

ところで、寄り添う支援とは、どういうことでしょうか？支援者のプライドや肩書を無くし、同じ立場で考え行動することだと思っています。

たいむは、「肯定語を使いなから、穏やかに諭すもしくは、注意する」を原則に「呼び捨て・叱らないことを職員全体で共有しています。ときとして、支援から指導に変わってしまいがちですが、あくまでも支援をさせていただいているという認識のもと謙虚な気持ちで利用者様に接していくことが重要だと思っています。

また、日常事故にまではならないまでも、ヒヤリハットや利用者様からの苦情等は、それぞれすぐに報告・検証していくこと

で虐待防止、または差別解消につながるものと思っています。

「たいむ」の基本理念は変わらず継承し、『寄り添う支援』を基本に、あせらずゆっくり進んでいきますので今後とも宜しくお願いいたします。

その他「女と男いきいきネット」構成団体

●「ネットワーク子どもがみんなか久喜」

●他 個人会員五名

【編集後記】

総会で「SDGs」について学びました。SDGsとは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標です。二〇三〇年を達成年限とし、十七の目標と百六十九のターゲットから構成されています。その中には「ジェンダー平等を現しよう」とあります。七年後、少しでも実現されるよう一人一人が頑張りますよう。(進藤)

【発行】

女と男いきいきネットワーク久喜

代表 内海弘美(2)8825

